



湯町橋全景



架橋時の湯町橋



楔石

県指定

建造物

湯町橋

ゆまちばし

県
1

所在地

杉
日輪寺

地図

P.141 15

橋長一七・七呎、幅員四・八呎、高さ四・〇呎の二連アーチの眼鏡橋です。文化十一年（一八一四）の築造で、市内に残る数少ない江戸期の石橋です。

もとは豊前街道（現国道四四三号の一部）の吉田川に架かっていましたが、昭和四十八年に河川改修工事のため解体され、同五十年に日輪寺境内へ移築復元されました。

解体の時、大正二年の拡幅で隠れていた楔石が発見され、年代と築造に携わった関係者（山鹿会所・石工等）が確認されました。

（橋本）

県指定

建造物

川西の宝篋印塔

かわにしほほうきやういんとう

県 2

所在地

菊鹿町

川西

地図

P.141 16



宝篋印塔近景



宝篋印塔遠景

宝篋印塔とは罪障（悪い行い）消滅と長寿の功德を願い「宝篋印陀羅尼」という経典を納めるために建立されたものです。

この塔は、完全な姿であれば三層を超える堂々たるもので、熊本県内に残されている宝篋印塔の中でも最も古く（銘文によれば正和三（一一三二）年）、かつ造形的にも優れた県下随一の宝篋印塔と言えます。構造上の特徴は、基礎石を階段状に六段積み重ねていることです。その上の塔身の中心部は納骨あるいは陀羅尼を納めるために刳り貫かれています。（青木）



県指定

建造物

笠忠平の宝塔

りゅうちゅうへいのほうとう

県
—
3

所在地

菊鹿町

相良

地図

P.141 17

我が国でも最古の年号をもつ
宝塔として知られるものです。
塔身の隅切りした面に、西郷（菊
池郡？）の住人である笠忠平が
七十八歳で出家し、八十四歳で入
滅したと、正治二（一一二〇）
年二月七日死去して、その年の
閏二月彼岸の五日目に塔婆を建
てたことが銘文として刻まれて
います。

現状は、塔の基礎石を笠がわ
りに乗せていて、正しい姿では
ありません。基礎石、笠石を失
つていて相輪も割れて落ちてい
ます。全体的に彩色されていて、
黒、赤、黄の顔料が見られます。

残された部位から、元の姿は
高さ二肘を超える色鮮やかな塔
であったことが推測されます。

（事務局）

県指定

彫刻

木造地藏菩薩立像

もくぞうじざうぼさつたつりゆうざう

県 4

所在地

鹿央町

霜野

地図

P.141 18



平安時代前期（九世紀末頃）の作とされ、県内では最古の木造仏です。総高は一〇〇・二七、像だけの高さは九六・七センチになります。

樞材^{かぎ}で、頭から台座までが一本の木で彫り出されています。お顔は、目鼻口を寄せて、目を薄く開けた状態にして、唇を少し突き出した重々しい顔つきです。体は、どつしりと重量感があり、衣のひだを大波小波の連続で表現する特徴（翻波式^{ほんぱしきえもん}衣文）も見られ、平安時代前期の様式が認められます。

康平寺^{こうへいじ}にあるいは、それに先立つ寺院に縁のある仏像といわれています。
（菊川）

県指定

彫刻

木造千手観音立像及び
二十八部衆立像二十六軀

もくぞうせんじゅのかんのたつたてがたて
にじゅうはつぶしゅうりゅうりゅうたてがたて

県—5

所在地

鹿央町

霜野

地図

P.141

19



江戸時代の宝暦から天明にかけて（一八世紀後半）観音像の大修復があつたことが台座の墨書から判明しました。



帝釈天像



迦楼羅王立像



鎌倉時代、地方仏師の作とみられる仏像群です。これほど千手観音と二十八部衆がまとまっているのは、全国でもあまり例がなく、大変貴重なものです。

千手観音像は、高さ二〇一・五寸と大型のもので、この千手観音を護衛しているのが、二十八部衆です。四躯が江戸時代の補作ですが、それ以外は鎌倉時代に作られたものです。全体に檜材が多く、樟材や榿材のものもあります。このうち、帝釈天像と満善軍王立像からは、正和元（一三二二）年に禎久法師が彩色供養したという銘が確認されています。このほか、大きな羽を持つ迦楼羅王立像はその特な姿に目を奪われます。体は人のようですが、鷲のように鋭い顔をしています。口から火を吹き、竜を食べるといって「ガルーダ」を表したものです。（菊川）

県指定

工芸

白山宮の鱧口

はくせんぐうのわにぐち

県 6

所在地

鍋田
博物館

地図

P.141 20



室町時代に作られた青銅製の鱧口です。最大幅は二五・〇センチ、厚さは五・五センチで、唇が〇・六センチと狭い点は南北朝期の特色を示しています。

表面には、タガネで銘が刻まれています。それによると、正平二十(一三六五)年二月九日に、能善坊が米野山(鹿央町)の白山宮に鱧口を奉納したとあります。

奉納された経緯が明らかで、熊本県内では二番目に古い鱧口とされています。(事務局)

「古事記伝」写本

こじきでんしやほん

県一七

所在地

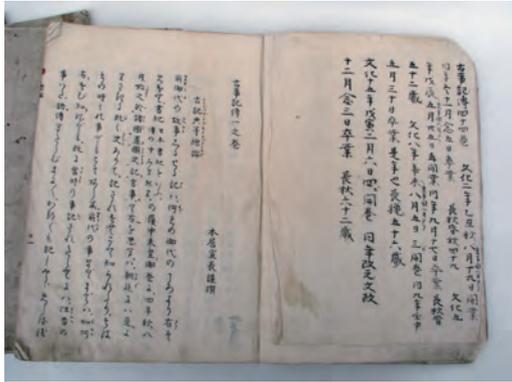
鍋田
博物館

地図

P.141 21



帆足長秋・京の銅像（博物館）



江戸時代後期、
ひとつめ 江戸時代の神主で
あった帆足長秋
とその娘の京が伊勢
の本居宣長もとへ出
向き、古事記伝を書
き写したもので、全
四四巻からなります。
文化二（一八〇五）
年に写書作業が開始
され、十三年後の文
化十五（一八一八）
年に完成しました。
国学の発展を肥後に
伝えた偉業の証であ
り、また歴史資料と
しても非常に価値の
高いものです。

（事務局）

県指定

考古資料

凡導寺の経筒

ばんどうじのきょうとう

県 8

所在地

鍋田
博物館

地図

P.141 22



経典を納めるための容器で、蒲生の不動岩の麓で発見されました。円筒形の身部に蓋が被せられています。身部の直径は一三・二二〜七センチで内部に直径九・二センチ、二五・二センチの深さで刳り抜かれています。外面には銘文が刻まれていて、平安時代末期の久安元年（一一四五）年に作られたことが分かります。当時の信仰を示す貴重な資料です。

（事務局）

県指定

考古資料

白塚石人

うすづかせきじん

県 9

所在地

熊本市
県立美術館



写真提供 熊本県立美術館

古墳時代後期の裝飾円墳である白塚古墳に立っていた、人を象った石の作り物です。鎧よろいをまとい、鞆ゆき（矢を納める容器）を背負っている、武装した人物です。

高さ約一五〇センチ、肩幅は約九〇センチで、首を失っています。鎧には赤で大きな三角文が描かれ、鞆にも赤色が一部認められます。

※ 大正二（一九一三）年に発見され、鹿本中学校（現鹿本商工高校）に移されました。現在は、熊本県立美術館に保管されています。（事務局）

※ 「石人について」東山外『石人』七卷十二月号 昭和四十一年 熊本史談会

県指定

考古資料

かとうだひがしほるいせき しゅつどひん
 方保田東原遺跡出土品
 県 10

所在地

方保田 出土文化
 財管理センター
 鍋田 博物館

地図

P.141

2

23



丹塗磨研土器（壺）



方格規矩鏡片

方保田東原遺跡出土品のうち国指定重要文化財に含まれなかった八十八点の遺物が県指定となっています。この中には祭祀（マツリ）に使われたと考えられる丹塗磨研土器（壺、甕）や祭祀土坑（マツリに關わる遺物が埋められた穴）から見つかった土器が含まれています。

また、詳しい出土場所が不明ながら舶載鏡（中国大陸から持ち込まれたと考えられる鏡）とみられる青銅鏡（方格規矩鏡）片なども含まれています。

（事務局）